令和８年１１月１２日

防　除　情　報

長崎県病害虫防除所長

令和８年度病害虫発生予察防除情報第９号

ばれいしょ・野菜類・花き類　ヨトウムシ類（ハスモンヨトウ・シロイチモジヨトウ）、オオタバコガの防除対策について

ヨトウムシ類とオオタバコガの１１月上旬のフェロモントラップ調査において、誘殺量が増加しています。今後、成虫の産卵と幼虫のふ化に伴い、被害の発生が予想されます。下記の点に留意して防除指導をお願いします。

記

１．発生状況等

（１）フェロモントラップの誘殺状況

ア　ハスモンヨトウのフェロモントラップ（諫早市、南島原市）の誘殺量は、１０月６半旬に急増し、平年より多く推移している（図１、２）。

イ　シロイチモジヨトウのフェロモントラップ（諫早市、雲仙市）の誘殺量は、９月６半旬に急増し、平年よりかなり多く推移している（図３、４）。

ウ　オオタバコガのフェロモントラップ（諫早市）の誘殺量は、１０月６半旬に増加し、平年より多く推移している（図５）。

エ　気象予報（福岡管区気象台、令和８年１１月１２日発表）によると、向こう１か月の気温は平年より高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

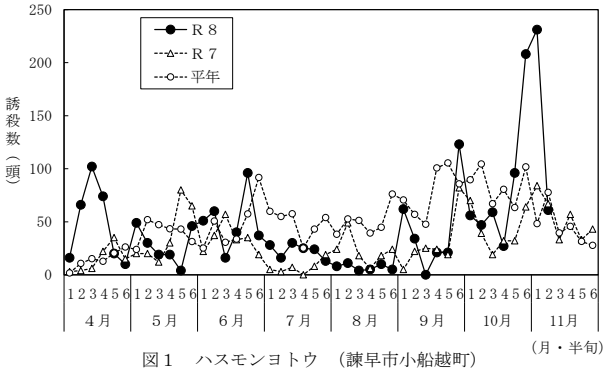


図１　ハスモンヨトウ　（諫早市小船越町）

※R8 年の 10 月 23 日～25 日は台風のため欠測

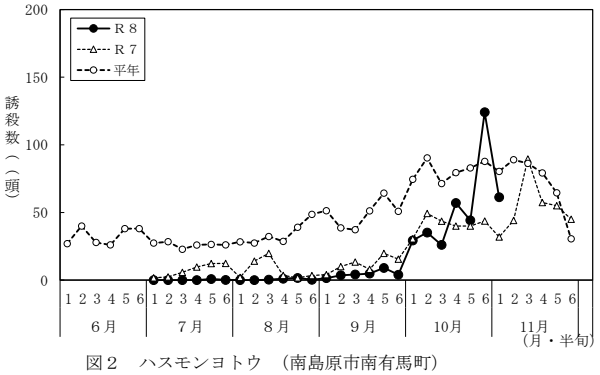


図２　ハスモンヨトウ　（南島原市南有馬町）

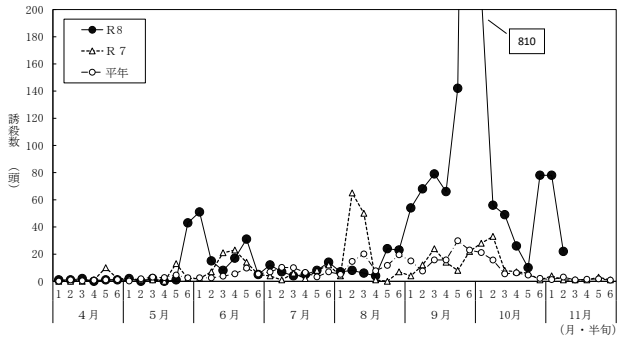


図３　シロイチモジヨトウ　（諫早市小船越町）

※R8 年の 10 月 23 日～25 日は台風のため欠測

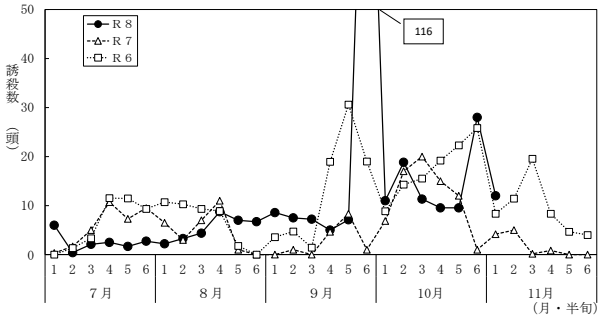


図４　シロイチモジヨトウ　（雲仙市吾妻町）

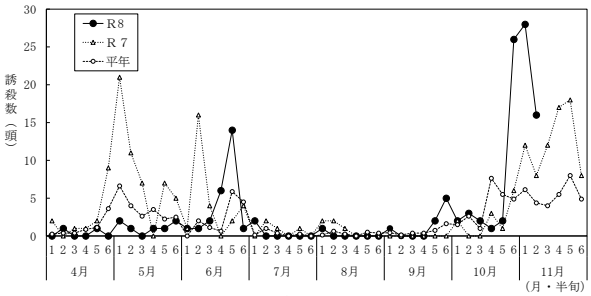


図５ オオタバコガ　（諫早市小船越町）

※R8 年の 10 月 23 日～25 日は台風のため欠測

（２）巡回調査における発生状況

ア　ばれいしょにおける１１月前期の巡回調査（２０筆）の結果、株当たり虫数は、ハスモンヨトウは０．００頭（平年　０．００頭）、オオタバコガは０．０２頭（同　０．０２頭）と平年並であった。シロイチモジヨトウは０．０２頭（同　０．０１頭）と平年よりやや多かった。また、チョウ目害虫の食害発生圃場率は４０．０％（同　５８．１％）と平年並であった。

イ　ブロッコリーにおける１１月前期の巡回調査（１１筆）の結果、ハスモンヨトウの寄生株率は４．７％（同　０．５％）、発生圃場率は３６．４％（同　１３．５％）と平年より高かった。シロイチモジヨトウの寄生株率は６．９％（同　０．８％）、発生圃場率は５４．５％(同　１８．８％）と平年より高かった。オオタバコガの寄生はみられなかった（寄生株率０．３％、発生圃場率８．３％）。

ウ　いちごにおける１１月前期の巡回調査（２５筆）の結果、ハスモンヨトウの食害株率は４．６％（同　１．９％）、寄生株率は０．６％（同　０．３％）と平年より高く、発生圃場率は２６．９％（同　３０．９％）で平年並であった。オオタバコガの寄生株率は０．０８％（同　０．０４％）と平年より高く、発生圃場率は３．９％（同　３．３％）で平年並だった。

エ　にんじん、だいこん等の野菜類でもチョウ目害虫の発生を認めている。

２．防除対策

（１）発生は圃場間差が大きいので圃場の見回りを徹底し早期発見に努める。また、卵塊や分散前のふ化幼虫（ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ）は見つけ次第除去し、適切に処分する。

（２）老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので、若・中齢幼虫期に薬剤散布する。

（３）ブロッコリー、レタスなど今後、定植する圃場においては、苗に薬剤のかん注処理や粒剤処理を行う。また、すでに定植した圃場で薬剤のかん注や粒剤を処理した圃場においても、定植後３～４週間以上経過している場合は、発生状況の把握に努め、発生初期に薬剤防除を行う。

（４）施設栽培の野菜類・花き類では施設開口部を防虫ネット（４ｍｍ目以下）で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。また、外気温の低下後も施設内での発生が長引くことがあるので、早期発見、早期防除に努める。

（５）薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和８年長崎県病害虫防除基準の「作用機構による分類（ＩＲＡＣ）」参照）の薬剤を連用しない。

○長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。
「長崎県農林技術開発センター　環境研究部門　病害虫発生予察室
（長崎県病害虫防除所）ホームページ」アドレス
：https://www.pref.nagasaki.jp/e-nourin/nougi/JPP/index.html
○この情報に関するお問い合わせ
長崎県農林技術開発センター　環境研究部門　病害虫発生予察室
（長崎県病害虫防除所）　ＴＥＬ：0957-26-0027